

# 外科

患者数実績		平成30年度	令和元年度	令和2年度
のべ入院患者数	年間	16,788	15,204	13,198
	1日平均	46	42	36
外来患者数	年間	18,097	17,559	17,045
	1日平均	75	73	70
手術件数				
手術件数		1,013	1,015	901
全身麻酔		866	902	822
腰椎・硬膜外麻酔・サドル		66	45	25
局麻件数		81	68	54
臨時手術		197	248	253
主な術式				
胸腔鏡下肺部分切除		44	34	37
肺葉切除		10	15	4
胸腔鏡下肺葉切除		72	61	57
甲状腺・副甲状腺手術		0	1	0
乳房切除		40	42	46
乳房温存		20	36	28
食道切除		17	9	5
胃全摘術		4	3	2
腹腔鏡補助下胃全摘術		15	7	10
胃切除		6	9	4
腹腔鏡下胃切除術		28	31	17
胃噴門部切除術		14	7	7
胃部分切除術		0	1	0
腹腔鏡下胃部分切除術		4	7	1
胃腸吻合		4	1	0
結腸切除		18	27	22
腹腔鏡下結腸切除術		65	58	51
直腸切除		0	7	1
腹腔鏡下前方切除術		18	27	24
直腸切断・人工肛門		4	5	3
ハルトマン手術		16	8	10
TEM		0	0	0
人工肛門		21	22	17
臍頭十二指腸切除		18	14	15
臍体尾部切除		1	9	4
肝切除（外側区切除）		1	0	1
肝切除（外側区除く区域以外）		9	9	8
肝切除（部分切除）		7	13	6

主な術式	平成30年度	令和元年度	令和2年度
肝 RFA	0	0	0
開腹胆摘術	5	5	3
腹腔鏡下胆摘術	70	62	76
イレウス手術	28	42	18
急性虫垂炎手術（成人）	41	37	54
小児急性虫垂炎手術	13	17	19
鼠径・大腿ヘルニア成人	112	78	57
小児鼠径・臍ヘルニア	15	22	14
小児外科疾患	26	51	38
術後縫合不全	2	2	1
術後出血	0	4	3
<b>主な疾患別手術症例数</b>			
甲状腺癌	0	0	0
甲状腺機能亢進症	0	0	0
甲状腺腫	1	1	0
副甲状腺疾患	0	0	0
肺癌	84	118	81
肺腫瘍	10	6	14
転移性肺腫瘍	13	17	23
縦隔腫瘍	12	8	30
自然気胸	15	18	8
乳癌	64	75	75
食道癌	15	10	6
食道胃接合部癌	5	6	3
胃癌十二指腸癌・悪性	67	50	43
胃十二指腸潰瘍・良性	5	4	2
結腸癌	78	78	68
直腸癌	31	45	31
痔核・痔瘻	3	7	5
胆管癌／胆嚢癌	11	11	11
膵癌	15	16	7
肝癌	6	12	9
転移性肝腫瘍	7	4	3
胆石症／総胆管結石症	42	68	58
脾疾患	2	1	0
イレウス	28	42	18
小児外科疾患	26	51	38
鼠径・大腿ヘルニア成人	112	78	57
小児鼠径・臍ヘルニア	15	22	14
急性虫垂炎成人	41	37	54
小児急性虫垂炎	13	17	19
急性胸部、腹部外傷	12	11	12

内視鏡手術症例数	平成30年度	令和元年度	令和2年度
胸腔鏡手術	134	167	135
肺部分手術	31	34	36
肺葉手術	66	69	61
肺区域切除	17	15	12
ブラ切除	13	17	7
膿胸手術	1	5	7
生検	1	12	12
縦隔腫瘍	15	8	10
食道切除	13	13	8
その他	3	7	9
腹腔鏡手術	400	360	334
食道裂孔ヘルニア	2	1	1
食道切除胃管作成	13	12	5
胃全摘術	15	3	5
胃切除術	43	27	25
胃部分切除術	4	7	1
大網充填術	7	3	1
結腸切除術	65	58	51
前方／低位前方切除術	18	27	26
直腸切断、人工肛門	8	5	4
虫垂切除	51	54	73
腹腔鏡下胆摘術	70	62	77
肝部分切除術	3	9	4
尾側臍切除術	4	3	1
脾摘	0	2	0
イレウス	10	16	9
ヘルニア（TAPP）	50	27	23
その他	0	43	39
小児外科腹腔鏡手術	5	25	23
虫垂切除	51	17	19
その他	0	8	4

一年通してコロナ禍にありその影響でほぼ通年で手術が週2枠削減されたこともありここ数年では最小の手術数となりました。特にヘルニアなどの良性疾患に顕著でした。術式の傾向としては消化器、呼吸器外科へのダヴィンチ手術の適応拡大により表からはわかりませんが増加の一途をたどっています。今後もさらに増加することが予想されます。

（文責／呼吸器外科主任部長 大竹 節之）